



人権かるたから学ぶこと

阿南市の各中学校には、「阿南市人権かるた」が配付されています。20年ほど前に、各中学校の生徒が作成したものです。さまざまな人権課題について知り、学ぶきっかけとなる内容になっており、本校でも、絵札や読み札から日本が抱える人権課題について考えました。そして、それぞれの札のもつ意味を考え、どう感じたかを書いてもらいました。

「いきいきと 働く喜び 男女(みな)同じ」・・・性別にとらわれず、自分がしたい仕事ができる世の中になって欲しいと思った。

「受け入れる 豊かな心で 人権尊重」・・・自分と意見や見方が違ってても、変な目で見たり、思ったことをすぐ口に出したりせず、受け入れることが大切だと思った。

「手をつなぎ みんなで守る 子どもの未来」・・・子どもに悪影響を及ぼす犯罪が多いので、それらから子どもたちを守るのが大切だと思った。

「ネット上 名前の見えない 恐ろしさ」・・・匿名で手軽に発信できるからこそ、責任感や思いやりが問われる中で、心がけられている人が少ない。それを変えたいと思った。

「喜び合う 仲間がいるから 頑張れる」・・・運動会で一緒に喜び合ったことを思い出した。この喜び合う仲間をずっと大切にしたい。

「らしくない? 誰が決めたの らしさって」・・・じっくり関わらないと分からないのに「～らしい」とか「～っぽい」と勝手にイメージをもってしまうのはよくないと思った。

社会には、様々な人権課題が依然として存在していますが、これらは決して自分以外の「誰かのこと」、「自分には関係のないこと」ではありません。この機会にぜひ、自分事として捉え、考えてみてください。

そして、人権作文や人権ポスターでは、人権学習で学んだこと、日常生活の中で感じた疑問や違和感を、みなさんの考えと共に素直な気持ちで表現してみてくださいね。

